

データ 寄託 の 手 引

データ 寄託 の お 願 い と 寄 託 の 方 法

SSJDA

● January 2023 ●

当アーカイブの構築に当たっては、文部科学省科学研究費補助金（研究成果公開促進費）の交付を受けております。（平成 11 年度 502002，平成 12 年度 128051，平成 13 年度 138045，平成 14 年度 148052，平成 15 年度 158053，平成 16 年度 168052，平成 17 年度 178050，平成 18 年度 188056，平成 20 年度 208034，平成 21 年度 218037，平成 22 年度 228032，平成 23 年度 238027，平成 24 年度 248024，平成 25 年度 258026，平成 26 年度 268017，平成 27 年度 15HP7003，平成 28 年度 15HP7003，平成 29 年度 15HP7003，平成 31 年度 19HP8015，令和 3 年度 21HP8013，令和 4 年度 22HP8013）

JSPS 人文学・社会科学データインフラストラクチャー構築推進事業（JPJS 00218077776，平成30年度-令和3年度）

SSJ データアーカイブ

東京大学社会科学研究所附属社会調査・データアーカイブ研究センター

所在地	〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1
URL	https://csrda.iss.u-tokyo.ac.jp/
E-mail	ssjda@iss.u-tokyo.ac.jp

はじめに	1
I SSJデータアーカイブについて	2
II 寄託のメリット	4
III 寄託の手続き・データの運用方法	5
IV SSJデータアーカイブ・データポリシー	7
V よくある質問	9
様式 寄託者登録申請書	12

はじめに

東京大学社会科学研究所附属社会調査・データアーカイブ研究センターは、我が国における社会科学の実証研究を支援することを目的として、SSJデータアーカイブ（Social Science Japan Data Archive）を運営しております。

当データアーカイブでは、我が国で実施された統計調査、社会調査の個票データ（個々の調査票の記入内容。マイクロデータ）を収集・保管し、学術目的での二次分析のために1998年4月から利用者に提供しています。

調査機関の皆様がお持ちの個票データの寄託を常時お待ちしております。趣旨をご理解の上、是非、ご協力をお願い申し上げます。

〔社会科学研究所（社研）〕

敗戦後の東京大学再生のための最初の改革として、当時の南原繁総長のイニシアティブによって、1946年8月、勅令第349号によって東京帝国大学に附置されました。現在は、比較現代法、比較現代政治、比較現代経済、比較現代社会、国際日本社会の5部門、および社会調査・データアーカイブ研究センターによって構成されております。

〔社会調査・データアーカイブ研究センター〕

1996年5月に社会科学研究所の附属機関として設立されました。研究の実証データと研究関連情報を蒐集・作成して提供すること、国際的な研究ネットワークを形成するための情報基盤を構築することを目的として、「調査基盤研究分野」「社会調査研究分野」「計量社会研究分野」「国際調査研究分野」という4つの研究分野を持ち、データアーカイブの運営とともに、独自のパネル調査（JLPS）の実施、日本版総合社会調査JGSSの共同企画実施（2012年度まで）、ICPSR国内利用協議会のハブ機関等を担っています。2010年4月から2022年3月まで、文部科学省「共同利用・共同研究拠点」制度の認定を受け、拠点機関として活動を行って参りました。2018年10月より独立行政法人日本学術振興会が実施する「人文学・社会科学データインフラストラクチャー構築推進事業」の拠点機関として認定を受けております。

I SSJデータアーカイブについて

SSJデータアーカイブは、統計調査、社会調査の個票データ（個々の調査票の記入内容、マイクロデータ）を収集・保管し、その散逸を防ぐとともに、学術目的での二次的な利用のために提供する機関です。東京大学社会科学研究所附属社会調査・データアーカイブ研究センター（CSRDA）は、我が国における社会科学の実証研究を支援することを目的として、SSJデータアーカイブを構築し、1998年4月から個票データの提供を行っております。

寄託データの公開・利用状況

SSJデータアーカイブでは、ベネッセコーポレーション、リクルートワークス研究所、家計経済研究所、日本生産性本部、朝日新聞社、第一生命経済研究所、ニッセイ基礎研究所、日本政策金融公庫総合研究所、労働政策研究・研修機構、日本家族社会学会、経済産業省、内閣府、厚生労働省、NHK放送文化研究所など多くの研究者・機関からデータを寄託していただいております。

これまでに2,000以上のデータセットを公開・提供しています。2021年度の利用状況は、データの利用者総数がおよそ6,500名、提供データセット数はおよそ19,000件となっており、多くの研究者に活用されています。

SSJデータアーカイブの運営状況

年度	新規公開 データセット数 ()内は調査数	収録調査DB検索 件数	公開データリスト・ アクセス件数	利用申請者数	利用者総数	提供データ セット総数	発表論文・ 著書等数	
							うち学位論 文数	
1998	276 (220)	—	—	11	14	22	3	1 (1)
1999	91 (60)	—	—	20	33	72	4	3 (0)
2000	42 (32)	—	—	51	74	147	3	0 (0)
2001	50 (22)	—	—	114	278	545	19	3 (0)
2002	40 (28)	4,581	—	222	489	796	37	2 (1)
2003	77 (58)	31,014	—	224	613	1,129	25	6 (1)
2004	101 (76)	40,583	—	343	802	1,735	56	12 (2)
2005	95 (65)	38,770	—	335	1,036	2,527	91	18 (1)
2006	185 (78)	43,011	—	366	944	1,641	61	19 (2)
2007	208 (94)	53,986	—	463	1,208	1,851	86	15 (0)
2008	56 (39)	43,613	5,406	481	1,434	2,165	113	30 (2)
2009	66 (62)	40,943	10,255	606	1,756	2,784	116	45 (2)
2010	61 (51)	41,425	15,425	666	1,354	1,630	135	28 (2)
2011	70 (50)	40,984	16,190	774	2,093	1,812	169	50 (3)
2012	74 (66)	40,738	16,691	855	2,567	2,352	145	74 (1)
2013	94 (61)	44,553	19,368	892	2,129	2,754	154	80 (2)
2014	96 (55)	68,027	27,799	976	2,867	5,921	220	108 (2)
2015	253 (89)	76,889	37,198	1,263	3,216	5,846	266	150 (0)
2016	83 (61)	140,206	35,637	1,088	4,013	6,972	191	128 (0)
2017	70 (61)	243,924	47,468	1,080	4,276	7,000	257	165 (0)
2018	80 (61)	364,360	64,947	1,169	3,922	6,463	247	161 (0)
2019	64 (52)	362,554	78,803	1,241	5,230	9,535	339	212 (0)
2020	55 (47)	320,090	61,188	1,220	5,149	12,905	343	216 (0)
2021	93 (84)	279,082	67,060	1,296	6,514	19,143	370	193 (0)

注：学位論文数の（ ）内数は、そのうち東京大学に提出された博士論文の数

SSJデータアーカイブの仕組み

寄託から利用者へのデータの提供、利用報告までは以下のような流れで行われます。

なお、学術目的であることに鑑み、寄託に要する経費については、寄託者、SSJデータアーカイブ、相互に無償としています。



2001年2月には、データアーカイブの国際的な情報交換の組織であるIFDO (International Federation of Data Organization) への加盟が承認され、東アジア諸国では、SSJデータアーカイブが最初の加盟機関となりました。2009年度以降は、IFDOの理事会メンバーを務めています。

II 寄託のメリット

■ 個票データの長期的・安全な保存ができます

統計調査や社会調査は多くの調査関係者の努力や、調査対象となった方の協力を得て行われます。多額の経費と時間をかけて得られた個票データは、死蔵や散逸を防ぐ必要がありますが、SSJデータアーカイブへの寄託により、データを長期かつ安全に保存することができます。

アーカイブに寄託された個票データは、二次利用可能な形式に整理して保管します。定期的なファイルのバックアップ、震災等に備えたデータディスクによる遠隔地での保管等、バックアップにも万全を期しており、データアーカイブは、寄託者にとって再び必要になる時に備えた“保険”にもなります。

■ 調査概要の周知と個票データの有効活用ができます

個票データがSSJデータアーカイブに寄託されると、SSJDAウェブサイトに調査の概要が掲載されますので、多くの方にその調査の存在を周知できます。（個票データは、承認手続きを経てから提供。）また、個票データを利用する論文にも、調査名や寄託者が記載されますので、その調査の意義が広く認められることになります。

データの二次利用によって類似の調査の重複を避けることができるうえ、調査対象者の負担を減らし、経費の削減へと繋がります。寄託により貴重な個票データを有効活用することができます。

■ 個票データの二次分析により、多くの新しい研究が可能となります

統計調査、社会調査から集積された個票データは、一般には調査実施者の問題意識の下での、限定的な集計や分析に留まります。ところが、異なった問題意識からは、当然それとは異なる集計や分析のニーズがあります。

データアーカイブに個票データが寄託され、それらが多くの研究者たちに二次分析されることで、新たな視座での研究の展開が期待されます。SSJデータアーカイブでは、データ利用者が二次分析の結果、論文を作成した場合、アーカイブから寄託者へ送付いたします。

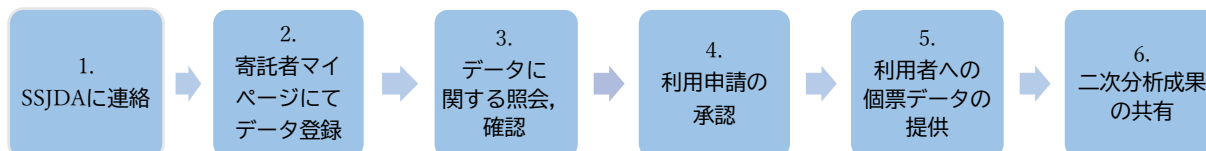
■ 寄託いただいた機関に所属の方はSSJデータアーカイブの個票データ利用が可能です

原則、SSJデータアーカイブの利用は、大学や公的研究機関に所属する研究者の方に限定されておりますが、寄託いただいた機関に所属する方は、SSJデータアーカイブの個票データを利用可能としています。

ただし、利用は学術目的の二次分析に限られます。また、利用を希望する調査の寄託者またはSSJDAの承認を得ることが必要です。

Ⅲ 寄託の手続き・データの運用方法

寄託から利用者へのデータの提供、利用報告までは以下のように行われます。



1. SSJDAに連絡

弊所に寄託されるのが初めての場合は、本手引き巻末にございます「寄託者登録申請書」をssjda@iss.u-tokyo.ac.jpまでご提出するようお願いいたします。こちら (https://csrda.iss.u-tokyo.ac.jp/ssjda_depo.doc) からワード形式のものもダウンロードいただけます。寄託者マイページのアカウントを既にお持ちの方は、マイページより、寄託データをご登録ください。

2. 寄託者マイページにてデータ登録

寄託者マイページマニュアルに沿って、寄託される調査の基本情報及び、公開にあたっての条件をご登録ください。また、下記のデータは必ずzipファイルにまとめ、SSJDA Directにご登録ください。

(1) 個票データ
個票データのファイルは、現在お持ちの形式をそのまま提出してください。
(2) 調査報告書
作業用と利用者閲覧用に【2部】の提供をお願いしています。報告書現物、または電子ファイル (word, pdf) いずれかの形式でご提供ください。
(3) 調査表
報告書に掲載されている場合でも、電子ファイルをご提出ください。
※(1)～(3)は必ず提出をお願いしているものです。(4)～(5)は該当する場合のみ提出してください。
(4) 個票データのフォーマット
テキストデータ等の場合、何桁目にどんな項目が入力されているかを表す資料の提供をお願いします。SPSS形式など、フォーマットを含むデータ形式の場合は不要です。
(5) その他、必要な資料
調査報告書には掲載されていない、下記のような資料があれば、提供してください。 <ul style="list-style-type: none">・ 設問別単純集計値、符号表 (コード表)・ 加重平均用の係数 (ウエイト)、注意事項等・ 英語版の調査票、個票データ (変数ラベル・値ラベル)

3. データに関する照会, 確認

アーカイブでは提供いただいた資料を基に、公開用の調査の概要を作成するほか、個票データを標準的なフォームに変換します。具体的には、提出された個票データを標準フォーム（SPSS形式等）に変換し、基礎的な内容チェック、無回答・非該当や多重回答項目の扱いに関する処理等のデータクリーニングを行います。また、調査関係資料に基づいて、調査の概要を作成します。この作業の関係で、アーカイブから質問をさせていただくこともありますが、その際にご協力をお願いします。

また、公開用の調査の概要、調査票、提供用の個票データがまとまったところで、それらの内容を確認していただきます。ご承諾いただいた後、SSJDAウェブサイトで公開いたします（個票データはウェブサイトでは公開しません）。

4. 利用申請の承認

データの利用希望者の個票データ利用申請は、SSJデータアーカイブが受け付けます。

寄託者がデータ利用の承認の判断をアーカイブに委任される場合、アーカイブは利用申請を厳正に審査いたします。（ただし、必要に応じて寄託者承認を行うことも可能。）

アーカイブは承認を与えた申請者に対してのみ、個票データを提供します。

5. 利用者への個票データの提供

承認を得た申請者は、一定の期限の間に限り、当アーカイブのウェブサイトにあるデータ検索利用システム SSJDA Direct を通じてダウンロードによってデータを取得することができます。

6. 二次分析成果の共有

利用者が二次分析の成果として論文等を発表した場合、利用者はアーカイブへ成果を提出します。提出のあった論文等は、アーカイブから寄託者へ共有いたします。なお、すべての利用者が論文等の発表に至るとは限りません。

IV SSJデータアーカイブ・データポリシー

SSJデータアーカイブでは、日本社会を対象とした社会科学分野の質問紙調査によるデータを収集・公開・管理しています。研究者・機関、企業などが実施した、主に確率抽出法で抽出された個人、家族、組織などを調査単位とする社会調査・労働調査のデータが対象となっています。

データコレクションポリシー

上記の方針に従い、下記の範囲で寄託データを受付しております。なお、下記範囲外の寄託データに関するご相談は、随時受付しております。

■ 調査分野

- ・社会科学全般
 - 法学
 - 政治学
 - 経済学
 - 経営学
 - 社会学
 - 心理学
 - 教育学
 - 社会疫学

■ 調査トピック

情報・通信・マスメディア
経済・産業・経営
教育・学習
法律
社会保障・福祉
国際比較・外交
政治・行政・選挙
雇用・労働
社会・文化
環境
安全・犯罪・災害
その他

■ 調査実施者

研究者
研究プロジェクト
大学や研究機関
政府官庁の委託調査
地方自治体
企業
一般財団法人、公益法人、協同組合、
独立行政法人

■ 調査規模

全国調査
地域調査
海外調査
国際比較調査

■ 調査方法

個別面接法
電話法
留置法
郵送法
集合法
インターネット調査

■ 調査対象

個人
組織
家族
世帯
地理的単位
その他

■ 標本抽出の方法

- ・ 確率抽出法
 - 単純無作為抽出法
 - 層化抽出法
 - クラスター抽出法
 - 多段抽出法
 - 系統抽出法
- ・ 非確率抽出法

■ データフォーマット

SPSS
Stata
SAS
MS Excel

■ SSJ データアーカイブでは扱わないデータ

- ・ 質的データ：インタビュー調査データ、録音データ、ビデオデータ
- ・ 商業用データ
- ・ 寄託許可を得ていない調査データ
- ・ 官公庁の一般統計調査
- ・ 社会科学分野以外の調査データ（例えば、物理学の実験データなど）

データ公開ポリシー

下記のポリシーに基づき、データを公開しています。

- ・ 寄託者から公開提供の承認を受けた調査データ
- ・ 量的データ
- ・ 特定の個人を識別することができない調査データ
- ・ 調査方法、調査事項の定義、その他の事項について不備があり、二次的な利用に適していない場合、SSJDAはデータの公開を見送ることもある。

個人情報保護ポリシー

SSJデータアーカイブに所蔵されている個票データは、個人の特定に結びつく情報を削除するなど厳重に匿名処理を施しているため個人情報保護法の定める個人情報ではありませんが、その内容・性質に鑑み、この指針に準じた形で保護されています。個票データについては、SSJデータアーカイブにおける正式の審査または寄託者による審査を経ることなく第三者に提供されることはありません。

データ管理ポリシー

個票データへの不正なアクセス、漏洩、データの改ざん、毀損を防ぐための必要な措置を講じております。データの損失及び毀損等に備え、定期的なバックアップを行っています。また、災害対策のため、バックアップデータの遠隔地保管も行っています。

V よくある質問

■ 個票データを公開したとき、回答者のプライバシーは守られるか

調査回答者のプライバシーを守ることは、データアーカイブの最も基本的な条件です。SSJデータアーカイブでは、データを数値だけの形にする、調査地域を粗く束ねる、など必要な措置を講じて、個々の回答者を識別することが不可能な形式に変換した上で、個票データを利用者に提供しています。

また、利用者には、個々の調査対象を特定する分析は行わない旨の誓約を設けています。もちろん、特定が不可能な形式に変換した上でデータを提供するので、そのようなことはできませんが、念には念を入れた措置です。

個票データの公開と回答者のプライバシーを守ることは、両立可能です。

■ データアーカイブに寄託すると、調査への協力度が低下しないか

最近、人々のプライバシー意識が高まっています。自分の書いた調査票がデータアーカイブに寄託されると、多くの方は不安を感じて調査に協力してくれなくなるのではないかと、というご心配があるかもしれません。

しかし、SSJデータアーカイブは、個々の回答者を識別できるような情報は公開しませんし、利用者も研究者、大学院生に限定し、利用も営利目的ではなく学術目的の二次分析に限定しています。

アメリカやヨーロッパ諸国において、極めて大規模なデータアーカイブが長期にわたって問題なく活動していることからしても、我が国においてご心配されるような問題が生じる可能性はないと考えます。

■ 調査内容の理解不足により、誤った分析をしてしまう危険はないか

方法や定義などについて十分理解している調査実施者が分析するならよいが、そうでない者が個票データを分析した場合、誤った結論を得る危険がある。このような指摘があります。この問題は、二次分析において常に注意しなければならないことです。

諸外国ではデータアーカイブが現実的に大規模に活用されている実績から、解決できない問題ではないと、我々は考えています。

SSJデータアーカイブとしては、個票データの誤用がなされないよう、必要な情報を利用者に提供していくとともに、調査内容や調査方法を十分理解して分析するよう指導に努めてまいります。

■ 寄託に当たって仕事が増えることにならないか

寄託すると、個票データの前処理や利用者からの質問で手間がかかるのではないかとのご心配があるかもしれません。

実際には、特殊な例を除いて、個票データのファイルは、寄託者がお持ちのものをそのまま提出いただけます。また、提供する個票データに関する利用者からの質問は、当アーカイブが窓口となり対応します。

アーカイブによるデータクリーニング作業の途中でご質問をすることもありますが、それほどのお手数はかけないで済むと考えています。

■ 公開できない項目があるので、寄託は難しいのではないか

秘密保護の問題や調査機関の営業活動上の理由で、調査の項目の一部は公開できないということがあるかも知れません。そのような場合は、公開できない部分を除いて、寄託していただいて差し支えございません。

また、個票データから一般公開できない部分をSSJデータアーカイブで削除又は加工することも行っております。どうぞご相談下さい。

■ 諸事情により、利用者へ公開することができないかもしれない、公開する時期を決められないため寄託が難しいのではないか

当該調査データを用いた成果物の刊行に時間がかかるなど、すぐに利用者へデータを公開することが難しいご事情があるかも知れません。そのような場合には、ご自由に公開の時期をご指定いただくことができます。

また当アーカイブは、利用者へのデータの提供のみならず、個票データの収集・保管も重要な役割であると考えております。公開を前提とするだけでなく、当面は公開せず保管のみを目的する場合にも、当アーカイブをご利用ください。

■ SSJDA以外の機関へもデータを寄託したい

より広くデータが活用されるよう、SSJDA以外の機関にもデータを寄託することを検討されることがあるかも知れません。その際には、他機関への提供の前に、一度その旨をご相談いただけますようお願い申し上げます。

当アーカイブでは、ご寄託いただいたデータを、秘匿処理のために一部クリーニングするなどの加工を行うことがあります。また、個票データの貸し出しに際し審査を行い利用者の管理を行っております。しかしながら、複数の機関からデータが提供されると、同じ名前で異なったデータが用いられることになったり、データ利用者の管理が難しくなったりする可能性が高まり、対策が必要となる場合があります。お手数をおかけいたしますが、よろしくお願い申し上げます。

■ 個票データをせっかく寄託するので、より多くの人に使ってもらえるようにしてほしい

上述の通り、SSJDAでは原則、利用者を研究者および大学院生に限定しておりますが、個票データの二次分析を積極的に促進するために、

「教員の指導を受けた大学の学部学生による研究目的の利用（卒論等）」

「教員の指導による教育目的の利用（授業等）」

についても個票データの提供を認める措置を一部データについて取っています。

また、さらに広く利用を促進するために、オンライン上で簡単な分析を行うことができる、リモート集計システム（Nesstar, SSJDA Data Analysis等）をご活用いただくこともできます。ただし これらの利用にはアクセス制限がないなど、通常のデータの貸し出しとは性格が大きく異なります（詳しくは、下記の「Nesstarについて」をご参照ください）。趣旨およびシステムを十分ご理解の上、ご許可をくださいますようお願いいたします。

以上拡大利用をお認めいただける場合、寄託者マイページの「リモート集計システム利用」にて、「利用可」をお選びいただくようお願い申し上げます。

※Nesstarについて

Nesstar は、メタデータ閲覧およびオンライン分析のためのシステムです。海外の主要なデータアーカイブで運用実績をもち、SSJDAでも、2012年11月よりNesstarの運用を開始しています。

メタデータとは、調査対象や標本抽出の方法、コーディングなど、「調査データに関する情報・データ」を指し、図書検索における書誌情報に相当するものです。Nesstar は、これらを国際基準にもとづく形で閲覧することができるシステムです。

また Nesstar では、公開データの一部について簡単な分析を行えるオンライン分析システムも導入されています。具体的には、単純集計結果の閲覧、クロス表の作成や相関分析などをオンライン上で行うことが可能です。

こうした機能によりデータの公開性を高め、より広く公共的な利用を促進することができます。2020年4月現在、「東大社研パネル調査」（東京大学社会科学研究所パネル調査プロジェクト）やベネッセ教育総合研究所「モノグラフ小学生／中学生／高校生」（ベネッセ教育総合研究所）といった寄託データが分析可能なデータとして搭載されています。

Nesstar を利用する際には、学術目的での利用に限ることや成果物を報告することなどについて利用者に誓約を求めており、誓約に同意した場合のみ分析が可能です。ただし、アクセス制限やアカウント登録などは設けておらず、自由にアクセス可能な形で運用しています。この点は、資格および審査をクリアすることが条件となる通常のデータ貸し出しとは大きく異なります。こうした特性をご理解の上、Nesstar の搭載許可をご検討くださいますようお願い申し上げます。詳しくは、下記サイトをご参照ください。

なお、Nesstarは2023年10月にサーバのサポートが終了するため、順次SSJDA Data Analysisに切り替えを進める予定です。

・Nesstar の概要

<https://csrda.iss.u-tokyo.ac.jp/international/ddi/nesstar/>

・メタデータ閲覧・オンライン分析用ページ

<https://nesstar.iss.u-tokyo.ac.jp/webview/>

・SSJDA Data Analysis分析用ページ

<https://online-data-analysis.iss.u-tokyo.ac.jp/>

様式 (https://csrda.iss.u-tokyo.ac.jp/ssjda_torokushinsei.docx からダウンロード可)

寄託者登録申請書

寄託者名および申請年月日

寄託者名 _____

寄託者名の
英語表記 _____

年月日 _____ 年 _____ 月 _____ 日

寄託担当者の連絡先

寄託事務を担当される方の連絡先をご記入ください。

所属 _____

職名 _____ 氏名 _____

〒 _____ - _____ _____

Tel _____ Fax _____ E-mail _____

※寄託事務のご担当者連絡先は、アーカイブから郵送物を送付する際の郵送先となります。

※担当者が変更される場合は、ssjda@iss.u-tokyo.ac.jp までご一報くださいますようお願い申し上げます。